

裁縫雛型



2月19日から「第14回飯能ひな飾り展」が開催されます。飯能市内を華やかな雛人形が彩る春の風物詩として楽しみにされている方も多いのではないのでしょうか。

雛人形の「雛」には「かわいらしい」や「小さい」といった意味があります。実物を小さくかたどったもののことを「雛形」と言うのもそのためです。現在では、「請求書の雛形」のように見本や書式（テンプレート）の意味合いでもよく使われます。

写真の可愛らしい衣服は、いずれも着せ替え人形が着るような小さなサイズですが、おもちゃではありません。「裁縫雛形」と言ってれっきとした学校の教材です。

裁縫雛形は、和洋裁縫伝習所（後に東京裁縫女学校。現在の東京家政大学）の創設者である渡邊辰五郎が考案したものです。布地が節約できるうえに短時間で多種多様な衣服の作り方が学べることから当時としては画期的な教授法でした。当館所蔵の裁縫雛形にも「渡邊辰五郎之見之印」という検印が押されているものがあることから、多くが明治時代に同校の生徒が授業の課題として作った作品であろうと思われます（なお、東京家政大学博物館が所蔵する裁縫雛形のコレクションは、国の重要有形民俗文化財に指定されています）。

この雛形を作った女学生は、女性の進学率が低かった時代に上級の学校に進んで学んだほどですから、きっと志の高い方だったのでしょう。彼女がどんな未来を夢見ながら課題に取り組んでいたのか、そしてその夢が叶ったのか。今となっては知る術もありませんが、あれこれ想像が膨らんでしまいます。

雛めぐりがてら、約100年前の女学生の思いが込められたかわいらしい遺産をぜひご覧ください。